

～TANKYU～

谷地南部小学校

校内研究だより

2023. 6. 21

No.20 文責 荒木秀

どうして、勉強しなくちゃいけないんですか？

2005年、日本テレビ系列で放映された『女王の教室』をご存知ですか？それまでの熱血教師とは正反対の教師像が話題となり、高視聴率を記録したドラマです（25歳の荒木青年は、陵南中で講師をし、ちょうど土田夏海先生が生徒で入ってきた頃ですねえ。ただ、話題にはなっていましたがドラマは見ていませんでした）。今から18年も前なので、どこまで知っているんでしょう。伊藤先生がギリギリかなあ…3人娘は論外ですね。

強権的な態度でクラスを支配する教師・阿久津真矢（天海祐希）と半崎小学校6年3組の児童との1年間にわたる「闘い」を描いた学園ドラマ。
(Wikipedia より引用)

児童役では、志田未来さんが出ていました（『ファーストペンギン』では、もう母親役。年月の長さを感じます）。なぜかはわかりませんが、「Instagram」を見ていたら、ドラマの1シーンが出てきました。次のようなやりとりです。

（児童） どうして、勉強するんですか、私たち？この前、先生は言いましたよね。いくら勉強して、いい大学やいい会社に入っても、そんなの何の意味もないって。じゃあ、どうして勉強しなくちゃいけないんですか？

（先生） いい加減、目覚めなさい。まだ、そんなこともわからないの。勉強はしなくちゃいけないものじゃありません。したいと思うものです。これからあなたたちは知らないものや理解できないものにたくさん出会います。「美しいな」とか「楽しいな」とか「不思議だな」と思うものにたくさん出会います。そのとき、もっともっとそのことを知りたい、勉強したいと自然に思うから人間なのです。好奇心や探究心のない人間は人間じゃありません。サル以下です。自分たちの生きているこの世界のことを知ろうとしなくて、何ができるというんですか。いくら勉強したって、生きている限り、わからないことはいっぱいあります。世の中には、何でも知ったような顔した大人がいっぱいいますが、あんなもの嘘っぱちです。いい大学に入ろうが、いい会社に入ろうが、いくつになっても勉強しようと思えばいくらでもできるんです。好奇心を失った瞬間、人間は死んだも同然です。勉強は受験のためにするものではありません。立派な大人になるためにするんです。

18年も前にこのセリフを入れるなんて、脚本家の遊川和彦さん、おそるべしです。さて、私たち教師は、子ども達に「勉強したい」と思わせるために、何ができるのでしょうか…？